

有明海・八代海等の概要 (2章関係)

1. 海域の特徴

有明海・八代海は、他の閉鎖性海域と比して、閉鎖性が高いこと、大きな潮位差と広大な干潟を有すること、海水は濁りを有していること、湾奥浅海域において独特の生態系を有することなどの特徴がある。

有明海は、九州西部の天草灘から胃袋型に深く入り込んだ内湾であって、福岡県、佐賀県、長崎県及び熊本県に囲まれた約1,700km²の海域面積を有している。有明海に流入する河川の流域面積は約8,000km²であり、主な河川として北部の六角川から時計回りに、嘉瀬川、筑後川、矢部川、菊池川、白川、緑川が有明海に流入している。有明海における大潮時の潮位差は湾口の早崎瀬戸で3~4m、湾奥(住ノ江港)では5mを超える。有明海の大きな干満差は我が国で最も広大な干潟を生じさせ、熊本県沿岸では砂質、湾奥部では泥質の干潟が形成されている。内湾性の強い湾奥部においては、汽水性の海域が広範囲に広がる特異な環境を有しており、ムツゴロウ、オオシャミセンガイ、ワラスボ、エツ、アリアケシラウオ等の独特の生物相を育んでいる。

八代海は、別名「不知火海」とも呼ばれ、天草灘から北東側に入り込んだ内湾であって、熊本県と鹿児島県に囲まれた約1,200km²の海域面積を有している。八代海に流入する河川の流域面積は約3,000km²であり、主な河川としては、球磨川、高尾野川、米野津川がある。その中でも球磨川は流域面積1,880km²を有する一級河川である。八代海における大潮時の潮位差は湾奥の八代港で約4mに達する。また、八代海は、北部(球磨川河口部から湾奥部にかけての東岸)に有明海に次ぐ広大な干潟を有しており、湾奥では泥質、球磨川河口周辺では砂質の干潟が分布している。八代海北部の干潟にはムツゴロウなど有明海と一部同じ生物が分布している。北部海域は内湾性が強いが、中央部以南の南部海域は徐々に外洋性を帯びる。

また、有明海及び八代海に隣接する海面として、有明海及び八代海等を再生するための特別措置に関する法律(平成14年法律第120号)において、平成23年の法改正により、橘湾及び熊本県天草市牛深町周辺の海面が同法に基づく対象海域として追加された。

橘湾は、長崎県の南部に位置し、湾口を南西に開いたやや外洋性の強い小湾であって、長崎半島、島原半島及び下島に囲まれた海域である。橘湾への大きな流入河川はない。湾内では、イワシ類等の浮魚類の漁獲がある。また、アカウミガメが南島原市口之津町白浜、長崎市脇岬町等で産卵することが確認されている他、アオウミガメの回遊も確認されている。

熊本県天草市牛深町周辺の海面は、天草諸島の下島の南端に位置し、東シナ海に面している。この海岸地先にはサンゴ群集の分布が確認されており、同じくガラモ場も多数確認されている。また、雲仙天草国立公園区域に指定されている。

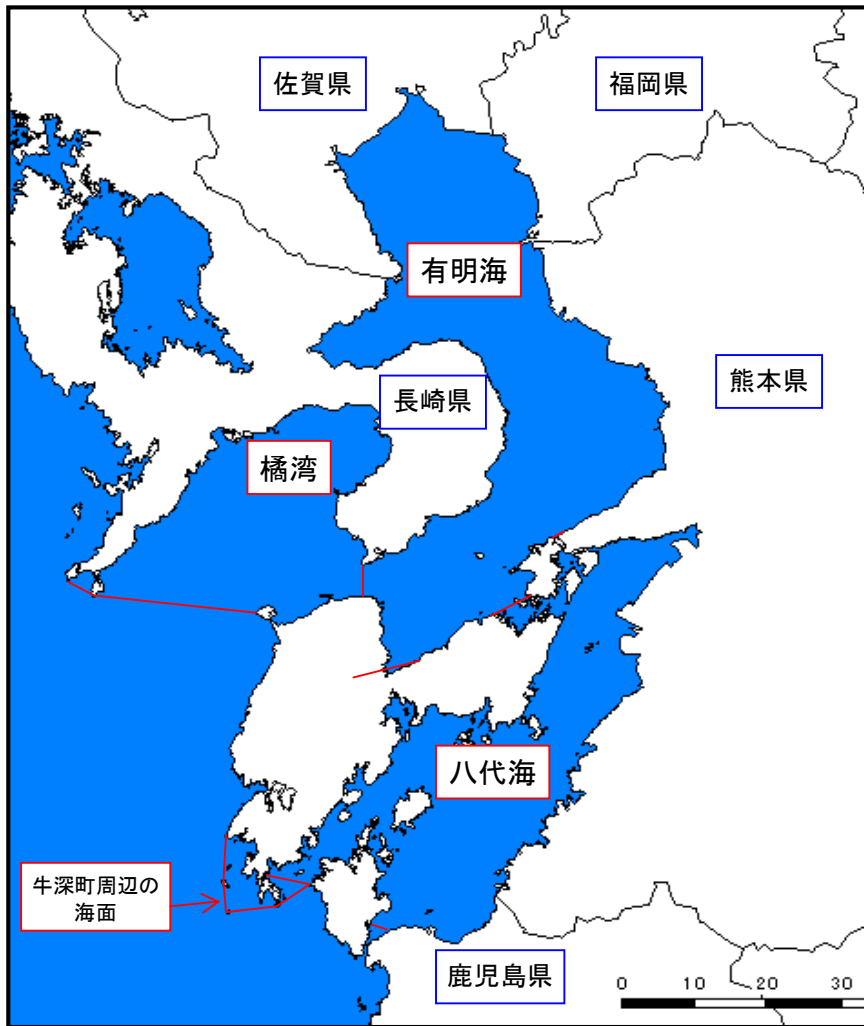


図1 有明海・八代海等の位置

表 1 有明海、八代海及び他の閉鎖性海域の諸元

項目	有明海	八代海	東京湾	伊勢湾	大阪湾
水域面積 (km ²)	1,700	1,200	1,380	2,342	1,447
容体積 (km ³)	34	22	62	39	44
平均水深 (m)	20	22	45	17	30
干潟面積 (ha)	18,841	4,085	1,734	2,901	79
藻場面積 (ha)	1,599	1,141	1,428	2,278	110
平均潮位差 [大潮時] (m)	5.4 (住ノ江港)	3.7 (八代港)	1.9 (東京港)	2.4 (名古屋港)	1.4 (大阪港)
閉鎖度指数	12.9	32.5	1.8	1.5	1.1 (瀬戸内海)
一級河川の流入水量 (10 ⁶ m ³ /年)	10,049	4,992	6,256	23,232	8,898
流域面積 (km ²)	8,420	3,409	7,597	16,191	5,766
流域内人口 (千人)	3,293	453	28,643	10,941	15,489

- 注) 1. 伊勢湾とは伊勢湾と三河湾を含む。
 2. 大阪湾の干潟面積、藻場面積は、「第5回自然環境保全基礎調査 海辺調査」の海域区分である大阪湾北と大阪湾南の合計である。
 3. 藻場と干潟面積は1993年度～1995年度までの調査結果である。なお、有明海の干潟面積は諫早湾の干拓事業で減少した面積分(1,550ha)を差し引いている。
 4. 流入水量は、各海域に流入する一級河川の年総量である。有明海・八代海は2012年度(矢部川のみ2012年の値)、東京湾・伊勢湾・大阪湾は2009年度の値である。
 5. 閉鎖度指数の値が高いと海水交換が悪く、富栄養化のおそれがあることを示す。
 6. 流域内人口について、有明海と八代海は2013年度現在の流域内人口であり、東京湾、伊勢湾及び大阪湾は2013年度現在の総量規制指定地域内の人口である。
 (※有明海及び八代海等を再生するための特別措置に関する法律(平成14年法律第120号)の規定に基づく、橘湾、熊本県天草市牛深町周辺の海面のデータを追加検討中)

2. 海域の背景

有明海、八代海の各流域の市町村数と人口を表 2 に示す。

表 2 有明海、八代海の流域人口等 (2013 年度)

(1) 有明海			(2) 八代海		
	市町村数	人口 (人)		市町村数	人口 (人)
福岡県	17	985, 123	熊本県	19	394, 607
佐賀県	16	623, 169	鹿児島県	3	58, 830
長崎県	4	198, 900	八代海計	22	453, 437
熊本県	28	1, 390, 172			
大分県	5	95, 740			
有明海計	70	3, 293, 104			

※熊本県は有明海と八代海の両流域に属する市町村がある (4 市町村)。

有明海流域の 2015 年の年平均気温は 16.8℃であり、八代海流域の 2015 年の年平均気温は 17.1℃である。また、有明海流域の 2015 年の年降水量は 2,244mm であり、八代海流域の 2015 年の年降水量は 2,540mm である。

有明海の流域は、土地区分別にみると山林面積が最も多く全体の 46.8%を占め、次いで市街地等の 30.4%となっている。八代海の流域は、土地区分別にみると山林面積が最も多く全体の 72.4%を占め、次いで市街地等の 16.2%となっている。

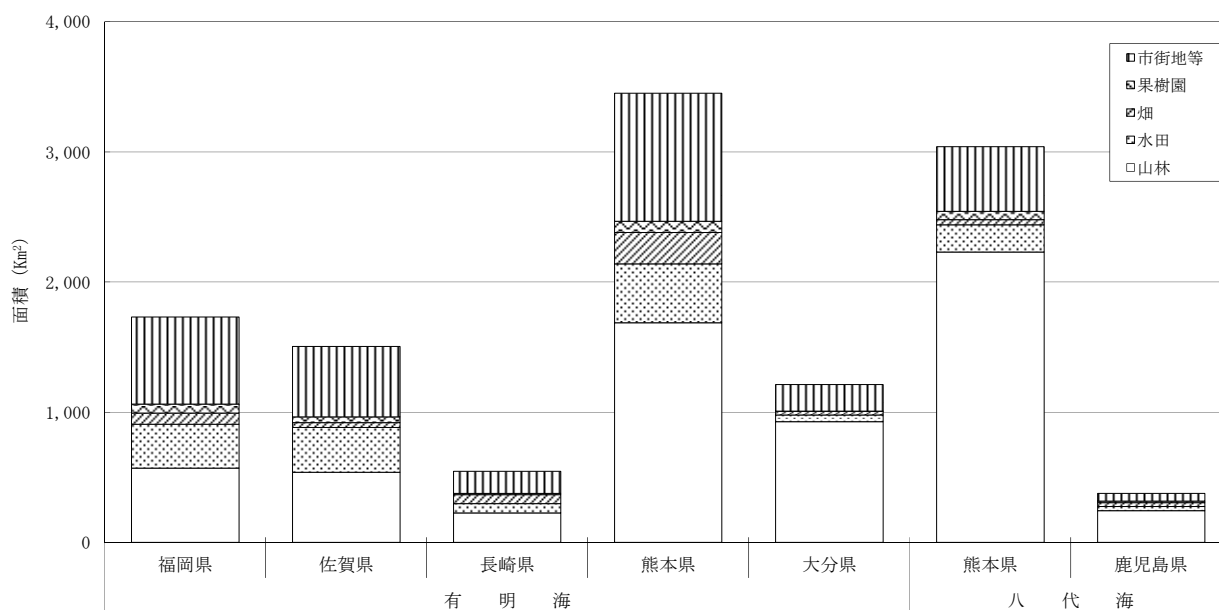
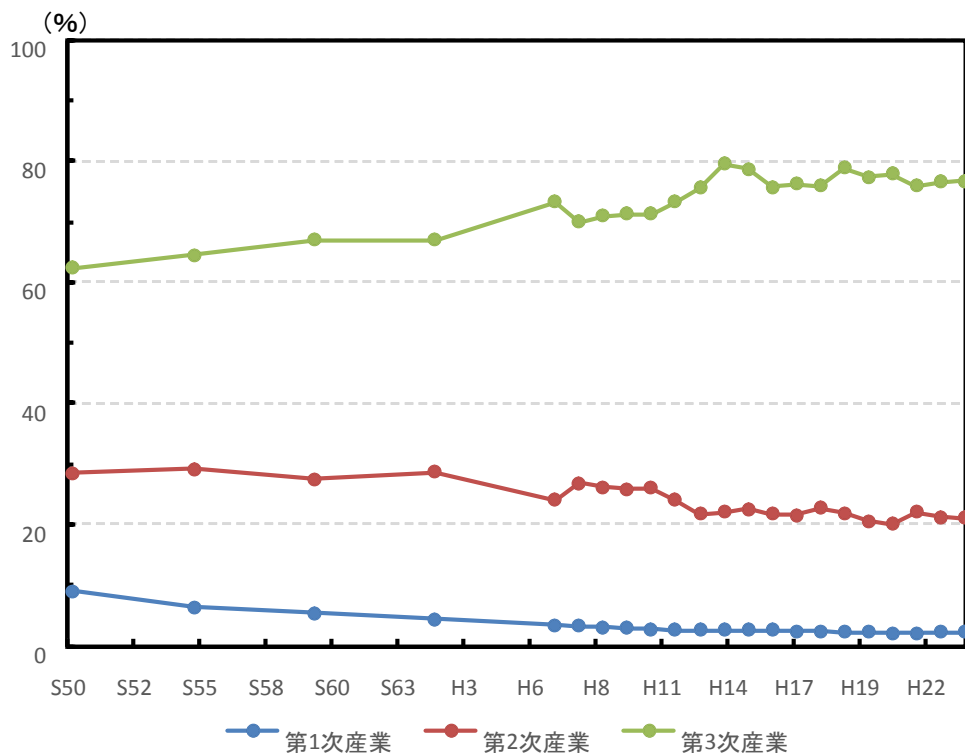


図 2 有明海・八代海の流域の土地区分状況 (2013 年度)

昭和50年からの有明海、八代海及び橘湾を囲む九州の産業構造をみると、昭和50年以降、第1次産業は漸減し、第3次産業は増加している。



※グラフの値はGDP構成比を示す。

出典：「九州経済の現状」九州経済産業局 2016年冬

図3 九州の産業構造の推移